

第60回 宮崎海岸市民談義所

日時：令和7年11月15日(土)13時～16時
場所：宮崎市佐土原総合支所2階研修室
国土交通省宮崎河川国道事務所・宮崎県

本日の議事

本日の議事

1. 市民談義所等の振り返り
2. 早急な対策の必要性
3. 住吉エリアの方向性
4. 談義
5. スケジュール

1. 市民談義所等の振り返り

(1)体制・手順の確認

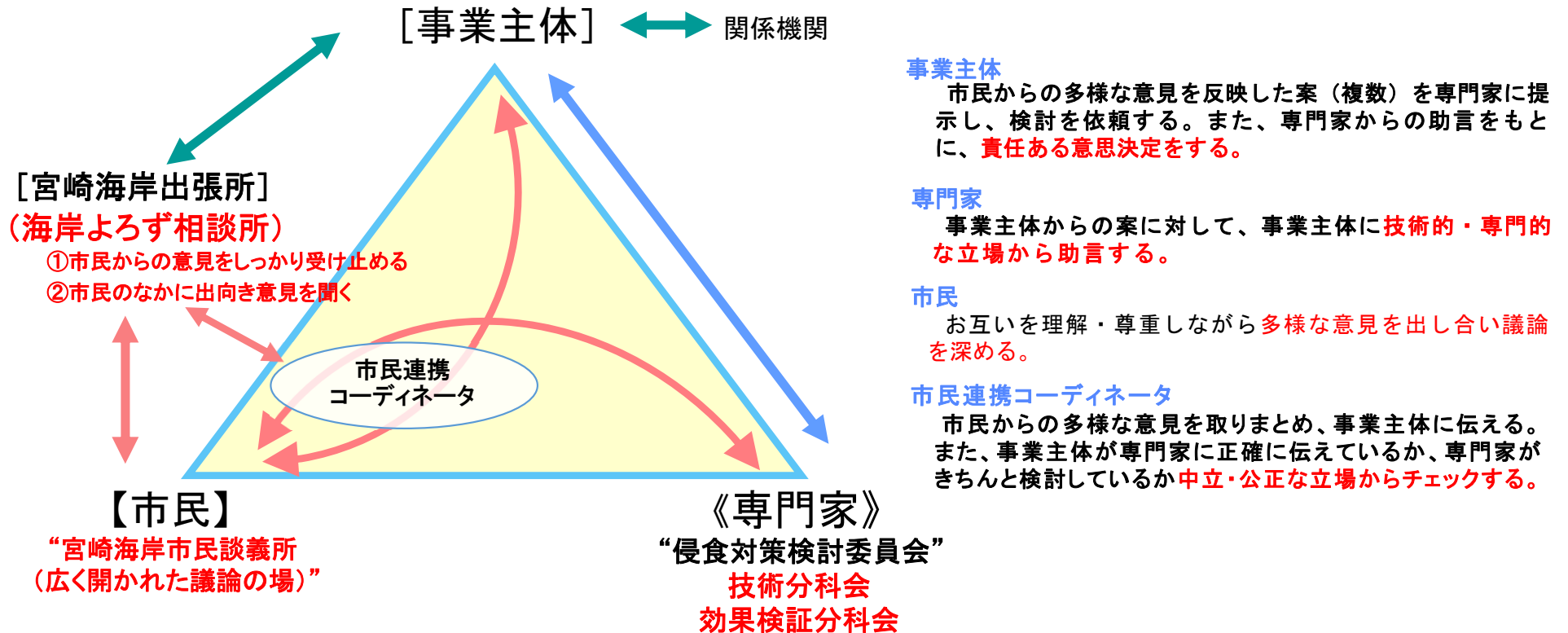
(2)市民談義所の振り返り

(3)特別・海岸よろず相談所【報告】

(1)体制・手順の確認 1)宮崎海岸トライアングル

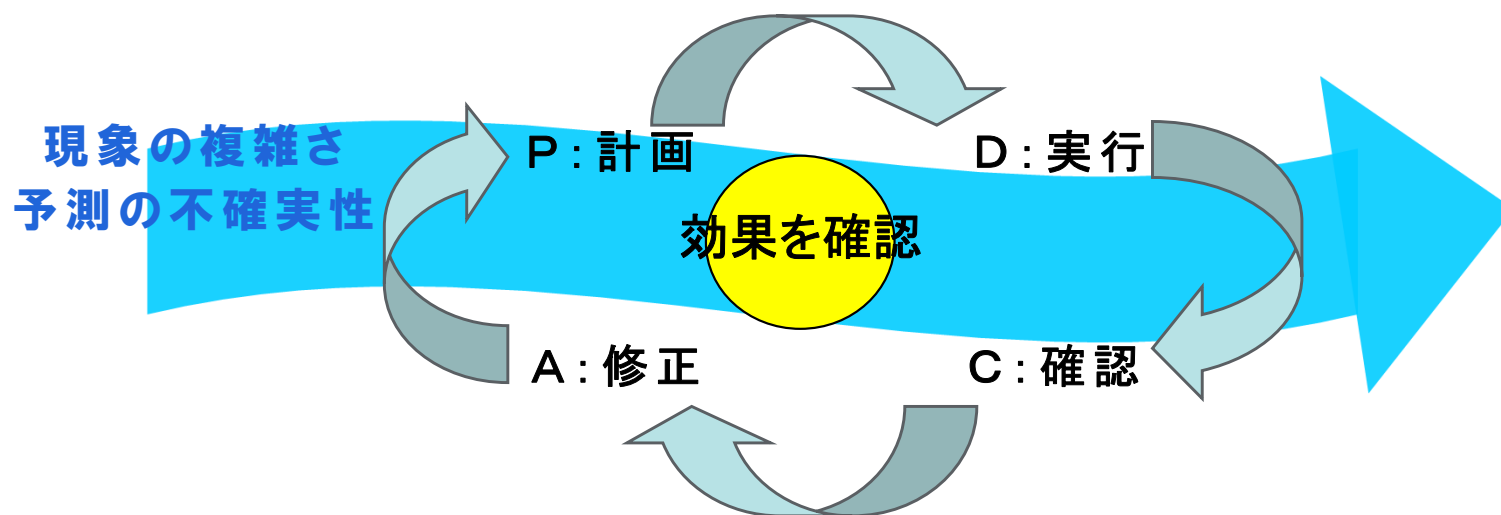
宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、**行政・市民・専門家が三者一体**となって進めていきます。



宮崎海岸ステップアップサイクル

自然現象の複雑さと社会環境・自然環境の変化に対する未来予測の不確実性を踏まえ、どのような方法をとればよいかを検討・実施し、その方法の効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進めていきます。



(1)体制・手順の確認 3)全体の流れ

宮崎海岸侵食対策 第一部 計画立案・実施(H20～R4)

- ・対策の検討【～H23】
- ・対策の実施【H24～R4】
- ・対策の効果・影響の確認【H24～R4】

施設計画

- ・突堤3基(300m,150m,50m)
- ・養浜280万m³

ステージ1～3

突堤延伸は現時点では困難・・・

宮崎海岸侵食対策 第二部 計画見直し・実施(R5～R19)

- ・対策の検討【R5～】
- ・対策の実施【R7～R19】
- ・対策の効果・影響の確認【R8～R19】

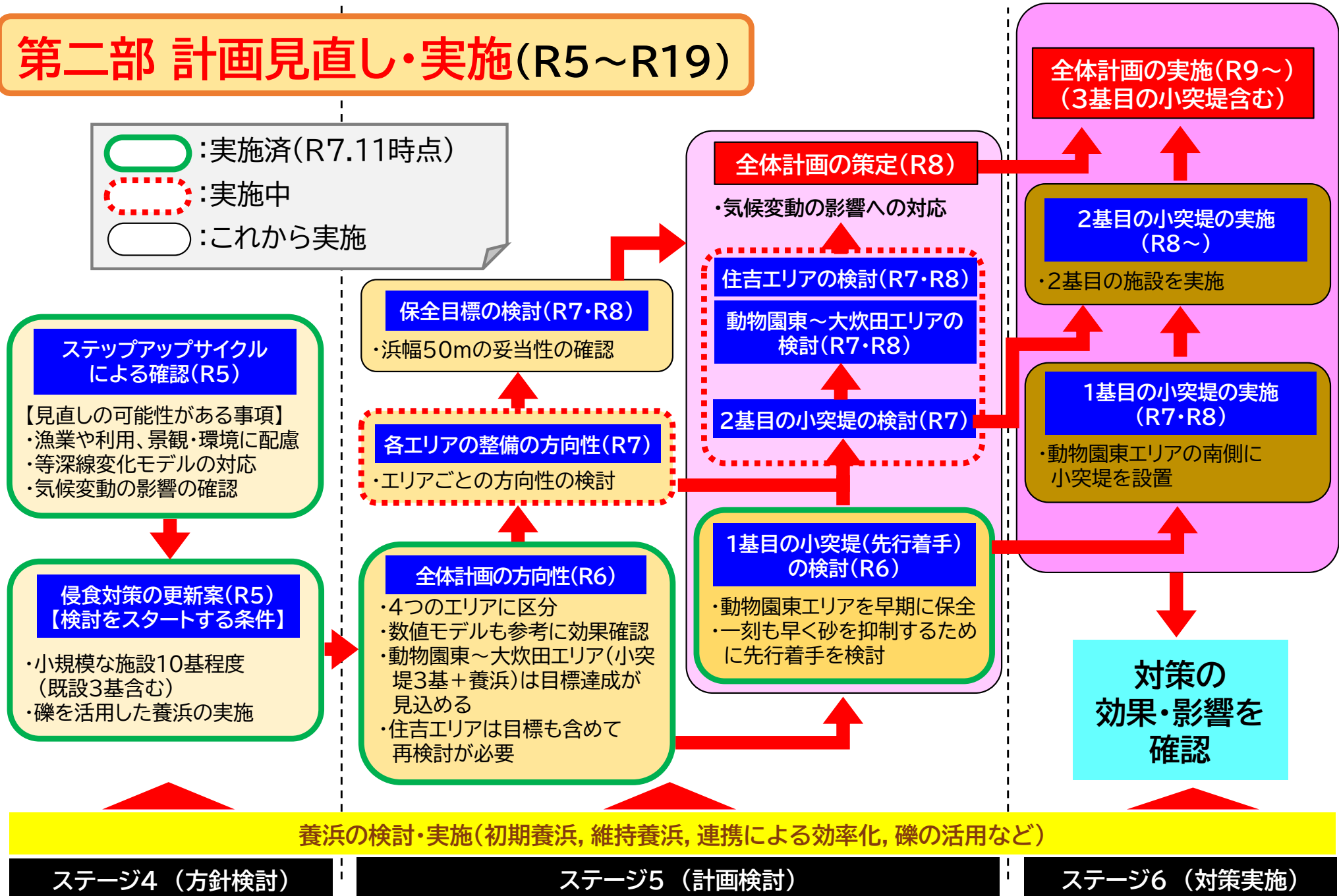
見直し施設計画(検討中)

- ・小突堤など小規模な施設を複数基
- ・礫も活用した養浜

ステージ4～6

(1)体制・手順の確認 4)ステージ進行図

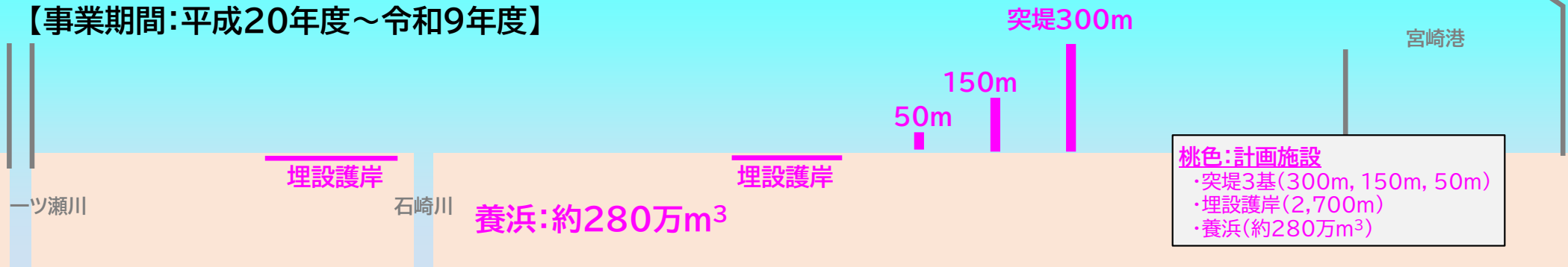
第二部 計画見直し・実施(R5～R19)



(1)体制・手順の確認 5)当初計画と見直し計画の確認

当初計画(平成23年度承認)

【事業期間:平成20年度～令和9年度】



見直し計画(令和5年度承認※)

【事業期間:平成20年度～令和19年度】

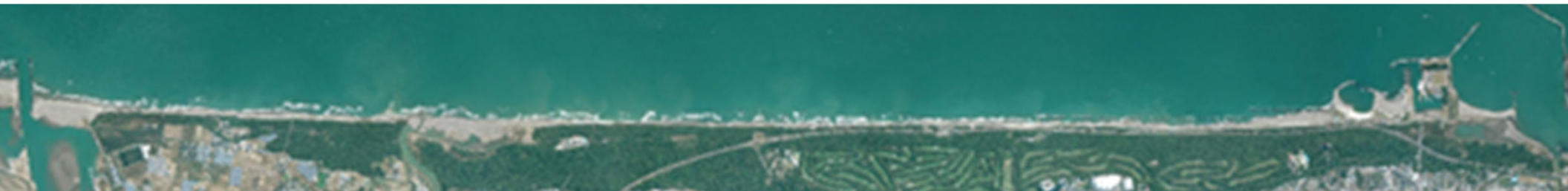
※各エリアの方向性は第24回委員会(R6.12開催)で承認

大炊田・石崎浜・動物園東エリアの方向性

・効果の発現が見込めることが
確認できたため、対策を進めていく

住吉エリアの方向性

・浜幅確保が難しいため背後地の
安全性を確保する対策を再検討する



参考:当初計画と見直し計画の概要

■当初計画(第10回委員会(H23.12開催)で承認)

宮崎海岸の侵食対策

目標

海岸の環境や利用と調和を図りつつ、背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止するために、「浜幅50mの確保」を達成することを目指す。

機能①北からの流入土砂を増やす

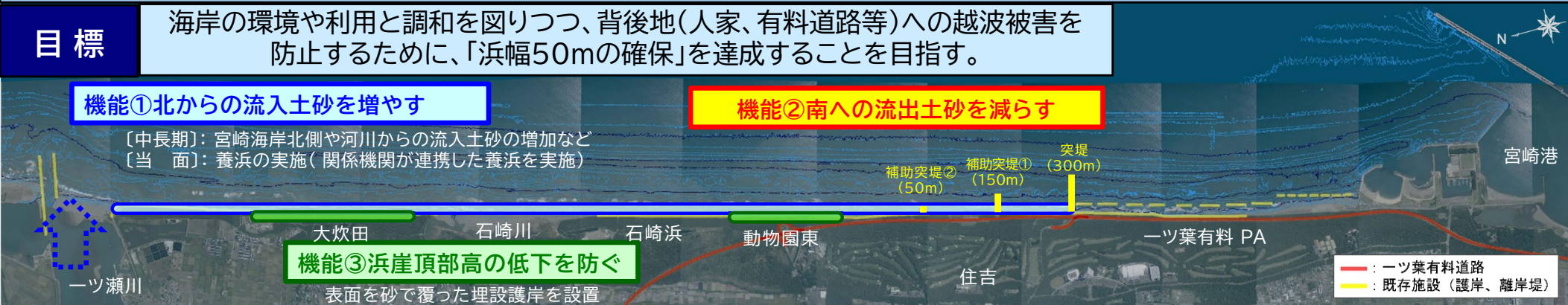
〔中長期〕: 宮崎海岸北側や河川からの流入土砂の増加など
〔当面〕: 養浜の実施(関係機関が連携した養浜を実施)

機能②南への流出土砂を減らす

補助突堤② (50m) 補助突堤① (150m) 突堤 (300m)

機能③浜崖頂部高の低下を防ぐ

表面を砂で覆った埋設護岸を設置



■見直し計画(第23回委員会(R6.3開催)で承認)

宮崎海岸の侵食対策(更新(案))

目標

海岸の環境や利用と調和を図りつつ、背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止するために、「浜幅50mの確保」を達成することを目指す。

機能①北からの流入土砂を増やす

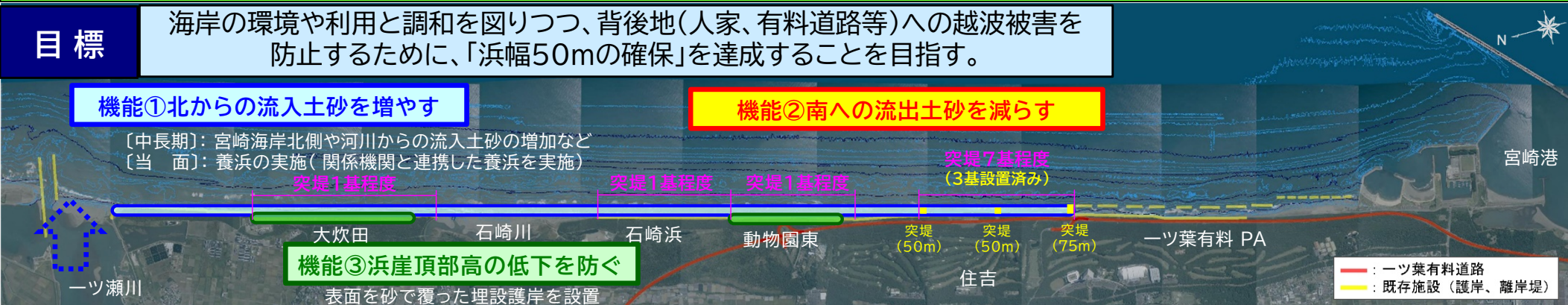
〔中長期〕: 宮崎海岸北側や河川からの流入土砂の増加など
〔当面〕: 養浜の実施(関係機関と連携した養浜を実施)

機能②南への流出土砂を減らす

突堤7基程度 (3基設置済み)

機能③浜崖頂部高の低下を防ぐ

表面を砂で覆った埋設護岸を設置



(2)市民談義所の振り返り 1)第59回開催状況

□開催日時:令和7年9月20日(土)13時~16時

□場 所:佐土原総合支所 2階研修室

□参加した市民:16名

□議事概要:

1. 市民談義所の振り返り

(1)宮崎海岸の検討体制・手順の確認

(2)第58回宮崎海岸市民談義所の振り返り

2. 本日の談義

(1)当面の工事予定

(2)これからの侵食対策事業について

(3)談義

3. 今後のスケジュール



事務局からの説明の様子



各テーマの談義の様子

★談義所に参加した中学校の生徒が、市民談義所で学んだことを生かして、宮崎市民文化ホールで8月に開催された”Welcome to our FURUSATO” で入賞しました。

★第58回市民談義所の振り返りの一環として、中学生に上記のプレゼンテーションを行っていただきました。



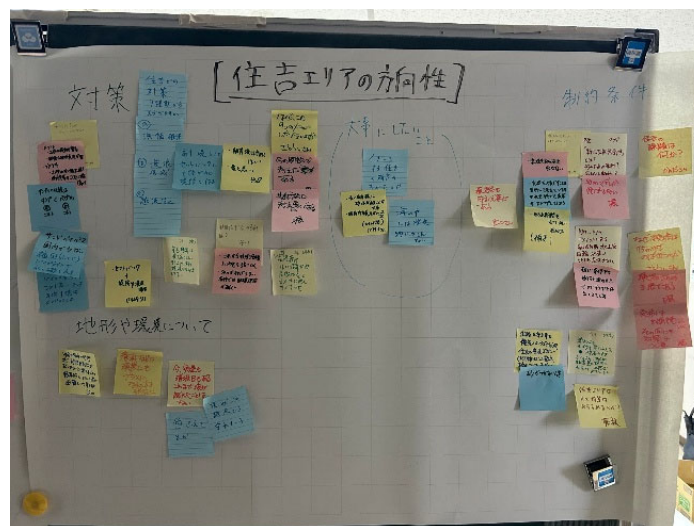
参考:前回の談義の様子

- 11 -

2基目の小突提案



住吉エリアの方向性



そのほかなんでも



(2)市民談義所の振り返り 2)第59回コーディネータのまとめ¹²⁻

- ・本日は3つのテーブルで白熱した議論が行われ、前回の談義所に引き続き、多様な意見がだされた。事業を進めるにあたって気をつける必要があることや、大事にしなければならないことが確認できたと思う。
- ・**[2基目の小突堤案]**のテーブルでは具体的に小突堤工事時の配慮事項について意見があった。また、検討の進め方についても、検討を進めるステージについて、**どのようなステップで次のステージに進んでいくのか**、ということを**きちんと市民と共有してほしい**という意見があった。具体的には、小突堤を作ることの効果や意義を模型実験など、**市民が直感的にわかるような方法で共有すること**や、**どのような条件がクリアできれば次のステージに進んでいくのか**を共有し、**これが達成できたから次のステップに**、ということがわかれば、**市民もより納得感が高まる**という意見があった。
- ・**[住吉エリアの方向性]**のテーブルでは、**離岸堤と垂直護岸は絶対にやってほしくない**、という強い意見もあった。砂浜がなくなることや、アカウミガメの上陸・産卵が難しくなるため、**宮崎海岸で目指してきた姿と違う**ということがその理由である。また、**海の中になるべく構造物を入れない**、という宮崎海岸の基本方針のとても大事なことをいかに守っていくかということでもあり、改めて基本方針を確認し、それに反しない方法を**市民と一緒に考えて考える**必要があると感じた。
- ・**[そのほかなんでも]**のテーブルでは、**海岸そのものではなく背後の海岸林や周辺の環境**を把握して**面的に海岸**を捉え、その上で、海岸の対策を考えてくといった新しい視点が示された。
- ・今後の事業に反映できるように、市民連携コーディネータの役割として、今回の意見もすべてしっかりと委員会等に伝えていく。

参考:これまでの意見一覧

分類	意見	回答	市民談義所(開催回・年月)									
			59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
			R7.9	R7.6	R7.4	R7.2	R7.12	R7.11	R7.9	R6.7	R6.6	R6.2
事業の進め方	見直し計画で「コンクリート構造物をできるだけ減らす」が実現できるのか	コンクリート構造物をできるだけ作らない対策を考えている		○				○				
	構造物に頼らない方法について検討しないのか	背後地の安全性確保に必要な最小限の構造物と考えている	○					○				
	突堤の数だけ多くなり砂浜が回復しないことを危惧している	住吉エリアにおいては小突堤では浜幅50mは困難と技術分科会でも指摘があり十分に検討する	○									○
	議論が十分にされないまま対策が進められているように感じる	談義所の回数を増やすなどして説明・議論して進める	○	○		○						
	市民の意見がどのように反映されているのか見えてこない	談義所の意見は委員会等にはしっかりと伝えている	○		○		○					
	漁業者とこれまでにどのような協議をしてきたのか	突堤の堤長などについて3か月に1回程度協議しており、今後も実施する		○			○			○		
	小突堤などを設置した後に、効果がないとわかった場合には撤去できるのか	存置が不適当と明確になった場合には撤去も検討する	○	○								
	陸側の保安林などを砂浜にすること(セットバック)は考えられないか	現時点では困難であるが中長期的な課題と考える	○	○								
	どのような状態になれば県に移管できるのか	砂浜が安定的に維持できる状態と考えている							○			
突堤の堤長	突堤の成功事例はあるのか	施設だけでは砂浜は回復しない。施設と養浜をセットで砂浜が回復できる		○								
	突堤の堤長は長いほど効果があるのであれば、突堤を伸ばすことをあきらめないで調整等していくことが必要では	現時点では“沖合は現況突堤と同程度まで”ということで漁業者と合意しているが引き続き、突堤堤長等について継続的に協議・調整等を行う		○	○	○		○			○	○
	漁業操業の支障について、その内容・意図を把握する必要があるのでは	ヒアリングをして整理しているが、今後も確認する		○	○	○			○			
1基目の小突堤	小突堤では砂の流出は止められないのではないのか	長い突堤のほうが良いと考えているが次善の策として養浜も合わせて浜幅を確保する								○	○	
	台風時期の波を考えると北側に設置するほうが良いのでは	動物園東エリアの砂浜を回復するためにエリアの南端とした。エリア内は背後がサンドバックであり被災の恐れがある。小突堤の設置位置の北側のサンドバックは補強対策をしており強固である。これらの理由により設置位置を決定した。				○						
	砂を止めるために、陸側基部と護岸の間は仮設ではなく確実にふさぐ必要があるのでは	必要性は認識しており具体的に検討する		○	○							
	波の集中する箇所であり不安がある	護岸の状況等を勘案してこの位置とした			○							
	小突堤を追加しても砂浜は回復しないのではないのか	既設突堤の位置よりも砂は付きやすい位置でありシミュレーション等でも効果を確認している				○	○	○	○			
	小突堤を追加するのではなく、既設突堤の改良(T型など)で対応できないか	改良についても検討するが、追加小突堤の代わりに効果は出せないと考え						○				
	仮設の突堤で効果を確認してから本対策を行うことはできないのか	突堤は知見多い施設であるため仮設で効果を確認してから実施は難しい	○				○					
	1基目の突堤の効果判定をしてから、突堤を増やす話だったと思う。効果判定をしないで作るのをおかしいのでは	効果は全体でみていく必要があるため、1基目の突堤と合わせて効果を高める事業を進めることを考えている。	○									
2基目の小突堤	既設突堤の効果	提示する	○		○	○			○			
	既設突堤は効果が出ていないのではないのか	一定の効果は出ていると考えている				○						
住吉エリア	なぜ住吉エリアは浜幅50m達成が難しいのか	護岸が海側に突出している等の理由による			○							
	突堤を追加するのではなく、ゼロから計画を考え直したほうが良いのではないのか	突堤以外の対策も含めて検討する	○			○						
	全域で50mを満たす必要があるのか、エリアごとに目標を変えるのがいいのではないのか		○									
	全域でアカウミガメが卵を産める必要はあるのか。あきらめるエリアがあってもよいのでは	住吉エリアについて対策を考える上での制約条件が厳しいものであるため、左記のようなことも含めながら検討を進めていく必要がある。		○								
	アカウミガメの上陸・産卵に悪い影響が多いため、離岸堤はやめてほしい	対策を選定する上での参考としたい。	○									
	既設護岸よりも陸側に必要な高さ堤防などを設置できないのか	背後の状況を踏まえながら実施できるか検討する必要がある。	○									
	現状でも波が越えたことがなく、越波から守られているのではないのか	現状の砂浜状況や既設護岸により越波はしない計算にもなっているが、短期変動や気候変動の影響も考慮すると長期的・抜本的に対策を検討する必要があると考えている。	○									
	安易な提案とか判断は絶対しないほしい	ご意見を重く受け止め、検討を進めていきたいと思う。	○									
養浜	パイプラインを用いたサンドバイパスシステムは考えられないのか。また、その場合の費用はどの程度か	可能性を検討する	○	○								
	養浜に用いる砂を確保できるのか	関係機関と連携して確保する			○					○		
	これまでの養浜の効果により自然環境・漁業資源が豊かになっているのでは	明瞭な関係性は示せないがどのように変化しているかは調査で把握している	○			○						
	今の宮崎海岸はカメが上陸できない、上陸できても固くて産卵できない、という状況であるカメが上陸・産卵できるように養浜なども工夫してほしい	養浜の工夫などについて検討する			○				○	○		○
総合土砂	磯養浜はアカウミガメの上陸・産卵には適さないのでは	具体について調査・検討する	○	○	○	○			○			
	河川から自然に土砂が流れてくるようにしてほしい	河川管理者と連携する			○							
利用・景観	総合土砂管理による河川との連携が不十分ではないか	協議・調整は行っているが、引き続き調整する				○	○	○		○	○	○
	突堤を工夫して、利用や観光資源にできないか	安全性確保の課題があり今すぐには困難であるが今後の課題とする			○	○	○					
気候変動	コンクリート以外の素材で突堤ができるのであれば検討してほしい	景観にも配慮して整備する				○						
	地球温暖化の影響の評価は過去から変化しているのではないのか。海岸事業として考慮していくのか	計画に見込む必要があると考えており検討する				○	○					
談義所の運営など	資料をしっかりと確認して意見を言いたいので事前に公開してほしい	事前公開は公平性等の課題があるため即時には公開できないが今後の課題として検討していく	○	○								

(3)特別・海岸よろず相談所【報告】

～ 海岸よろず相談所(宮崎海岸出張所)のご案内 ～

海岸よろず相談所(宮崎海岸出張所)は、みなさまにお気軽にお越し頂き、昔の海岸のお話や海岸事業に関するご意見・ご質問など遠慮なくお話頂ける相談所を目指しています。

談義所以外でも意見をきくための機会を増やす新たな取り組みとして、下記の特別・海岸よろず相談所を試行的に開設します。みなさまの来所をお待ちしております。

特別・海岸よろず相談所の開設

これからの海岸事業や将来の海岸のイメージなどについて、ざっくばらんに話を聞かせてもらいたいと考えています。その場として「特別・海岸よろず相談所」を開設します。下記の注意事項等をご確認の上、ご利用ください。

- 年 月 日:令和7年10月16日(木)～10月30日(木) ※土日も可能です！
- 時 間:9時～20時
※1グループあたり1～2時間程度
- 場 所:宮崎海岸出張所(佐土原町下田島 9515-6)
- 形 式:**事前申込制**とします
ご希望の日時お時間を教えてください 個別に調整します
早めのお申し込みをお願いします(ご希望の日時の3日前までを目安にお申し込みください)
みなさんの意見・想いなどをお聞きし、それに対しこれまで市民談義所等で使用した資料でご説明します。
- 定 員:5グループ
(1グループ最大5名程度 ※1名での参加も可能です)



■開催の概要

参加市民:4グループ(計7名), 各2～3時間

事務局:国交省, コンサルタント

主な意見:

- ・整備を反対する意見にだけでなく、背後地を護るために整備を進めてほしいという意見についても談義してほしい
- ・海岸でわくわくできるようなことも進めてほしい
- ・砂浜が回復するとカメも産卵できるため、砂浜が回復するような整備を進めてほしい
- ・国直轄事業しかできない高度な技術といえるような対策を考えてほしい
- ・談義所の資料は難しく、すぐには理解できない
- ・広報として継続的なイベントを企画するとよいと思う
- ・石崎浜でハマユウの保護に仲間たちと継続的に取り組んでいる。これに配慮した養浜も考えてほしい



参考:特別・海岸よろず相談所で上がった話題など

テーマ	話題など	テーマ	話題など	テーマ	話題など
思い	構造物を少なくしたい思い	工法	既存施設の安定性	漁業者との調整	漁業者との計画当初の調整
	過去の宮崎海岸		サンドバックの効果		漁業者との現在の調整状況
事業の方向性	環境の変化に応じた海岸保全		人工リーフに関する考察	当初計画	当初計画の根拠
	観光・利用に関する他機関との連携		漂砂制御の必要性	アカウミガメ	宮崎海岸の上陸・産卵状況
	これからの施設整備への懸念		漂砂制御への疑問		アカウミガメ上陸と施設の関係
	事業主体の主体性		見直し計画に関する確認		アカウミガメの上陸・産卵と礫
	自然の力を利用した海岸づくり		模型実験での説明の必要性	石崎浜	石崎川河口の堆砂
	地域による海岸づくり	養浜	沖合養浜について		石崎浜の土砂移動の激しさ
	背後地の防護の必要性		継続的な養浜の必要性	広報	イベントによる海岸の広報
	保安林との連携		県移管後の維持養浜		サンドバックのアピール
	若手の参画への期待		今後の養浜計画	談義所運営	行政的な制約の説明の必要性
	わくわくする海岸づくり		実施してきた養浜事業への理解		サーファーの談義所参加
土砂の動き	岸沖の土砂移動		養浜実施の実現性		様々な意見に対する談義の必要性
	自然な砂浜の堆砂メカニズム		養浜投入箇所の工夫		市民と行政のかかわり
	総合土砂管理の視点		養浜の質		談義所資料の難しさ
	ダム堆砂の活用		礫の生物への影響		過去に談義所に携わった人との連携
	ダムの構造	小突堤	既存突堤と新規小突堤の効果の違い	要望	石崎浜ハマユウ群落の保全の必要性
	土砂に関するダム運用の工夫		小突堤による堆砂への期待		河川区域への養浜
	土砂の移動やバー地形の必要性		小突堤の施工手順		国直轄ならではの技術の導入
	一ツ瀬川河口左岸の堆積土砂の活用		小突堤の堤長		様々な工法のチャレンジ
	宮崎海岸に襲来する波		小突堤と養浜		作るのであればきれいな施設を希望
	宮崎海岸に流入する土砂の変化	住吉エリア	小突堤の配置	他海岸	海岸へのアクセス道の整備
	サーフィンと海岸地形		住吉エリアの侵食と当初計画		赤江浜の砂浜の付き方・工法
	既設緩傾斜護岸の堆砂状況		住吉エリアの砂のつきにくさ		他の海岸での話し合いの事例
			大規模養浜の試行		他の海岸の状況
				他事業	突堤による他海岸の事例について
					一ツ葉防砂堤の延伸
					松林の管理

2. 早急な対策の必要性

(1)事業実施のための条件について

(2)時間・予算の条件について

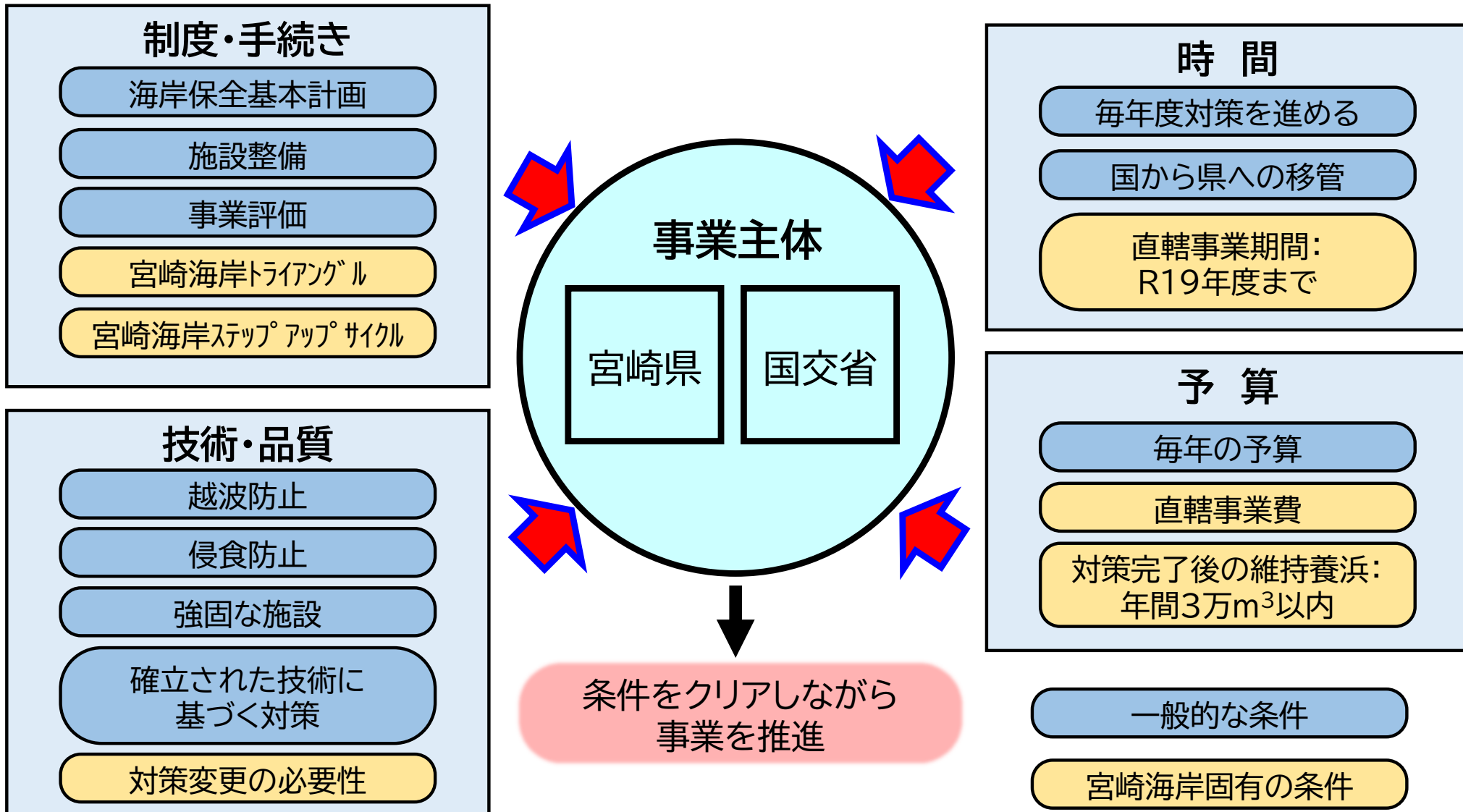
(3)対策の必要性のおさらい

(4)早急な対策の必要性について

(1)事業実施のための条件について

「宮崎海岸保全の基本方針」と「沖合には施設を作れない」を踏まえた

宮崎海岸の事業実施のための条件のイメージ

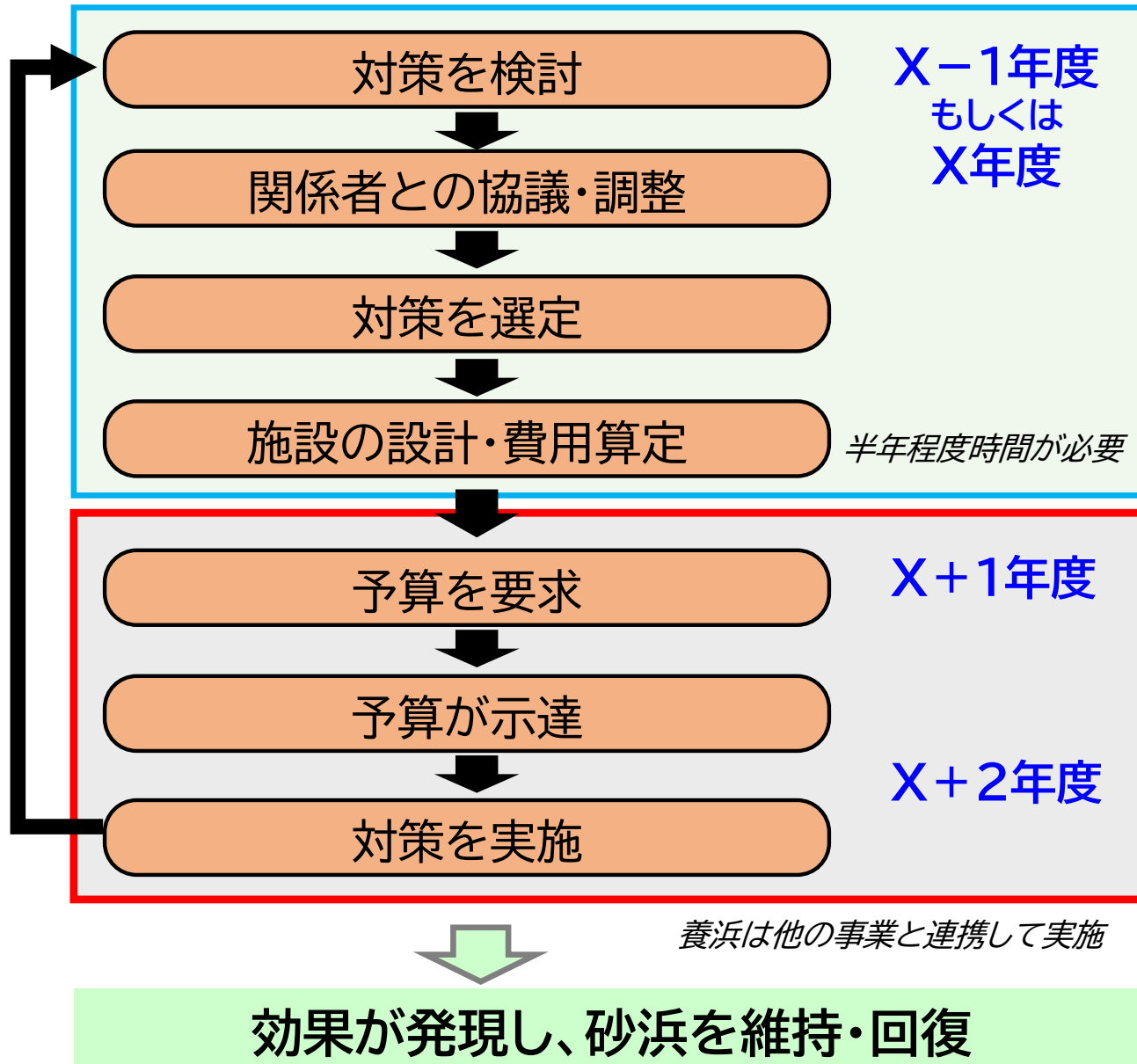


参考:条件の詳細一覧表

分類		項目	内容	備考
宮崎海岸固有	制度・手続き	宮崎海岸トライアングル	侵食対策事業を進める体制	市民・事業主体・学識で協議し、合意
		宮崎海岸ステップアップサイクル	侵食対策事業の進め方	
	技術・品質	対策の変更の必要性	当初計画の実施困難であり次善の策を検討中	
	時間	直轄事業期間	R19年度まで(検討スタート案を実施とした場合に必要な年数より設定, R6年度に変更)	次善の策を計画としてとりまとめたうえで変更手続きを実施
	予算	直轄事業費	235億円(実施済み含む全体事業費)	
		維持養浜	年間3万m ³ 以内	将来の県の負担を考慮すると見直しは困難
一般	制度・手続き	海岸保全基本計画	防護・環境・利用に関する計画	
		海岸保全施設整備	海岸保全区域内での整備	海岸保全区域を超える場合は県関係部局との調整・了承が必要
		事業評価	事業の効率性・透明性の確保	
		適切な対策	効果がありバランスのとれた対策の実施	
	技術・品質	越波防止	背後地への浸水を防止する対策	海岸法に基づき実施
		侵食防止	漂砂の連続性・持続性を踏まえた対策	
		施設の安定性	強固な施設の整備	
		確立された技術の適用	技術的に確立され信頼性のある対策の実施	新技術を適用する場合は現地実験等を行い、十分な信頼性を証明することが必要
	時間	毎年度対策を進める	効果を確実に発現するために実施	侵食対策は急務
		国から県への移管	直轄事業終了後は県が単独で管理	海岸法に基づき実施
	予算	予算の年度内執行	会計年度独立の原則による	財政法に基づき実施

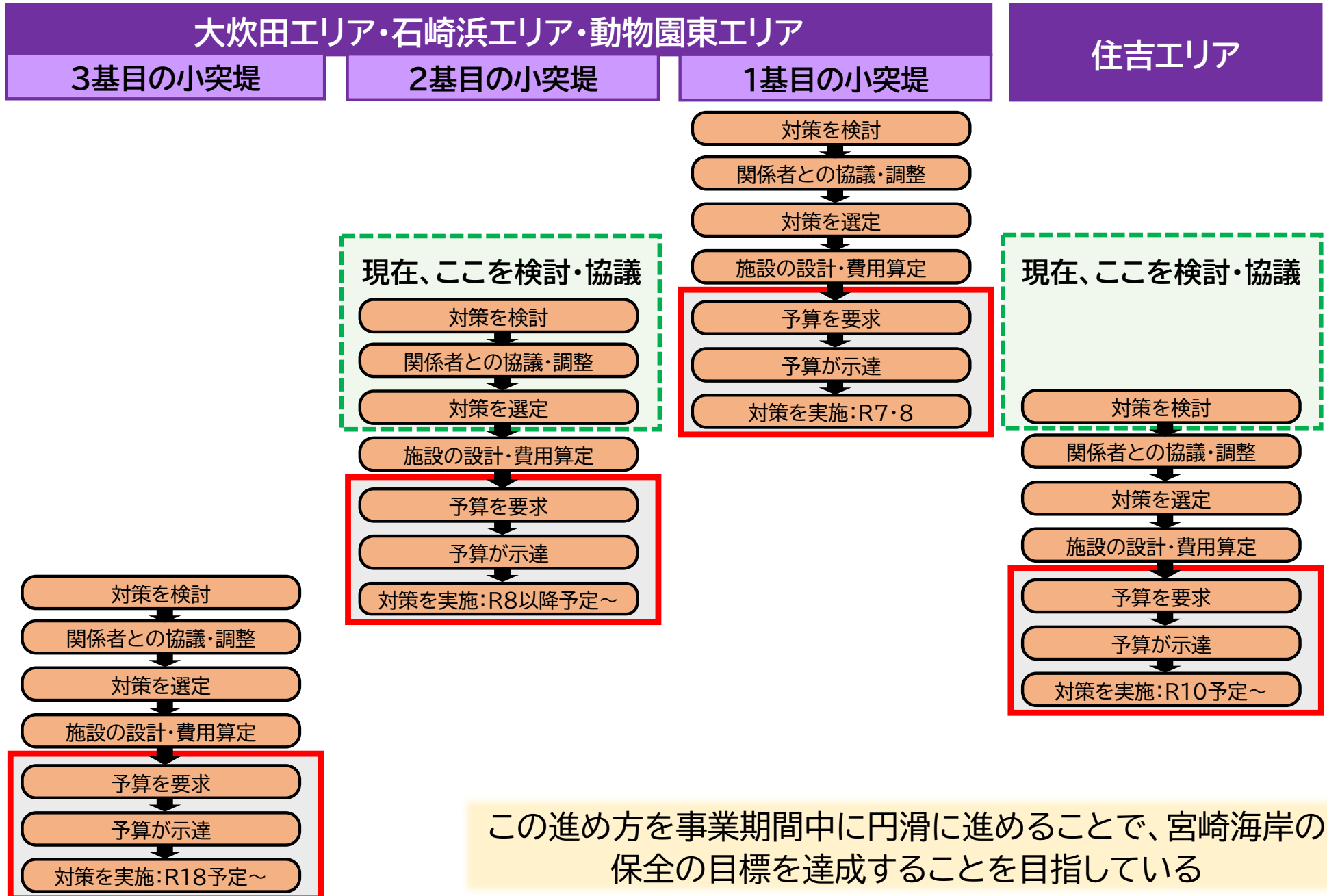
(2)時間・予算の条件について 1)基本的な流れ

対策の検討から実施までの進め方イメージ



左記の進め方を事業期間中に円滑に進めることで、宮崎海岸の保全の目標を達成することを目指している

(2)時間・予算の条件について 2)宮崎海岸での流れ



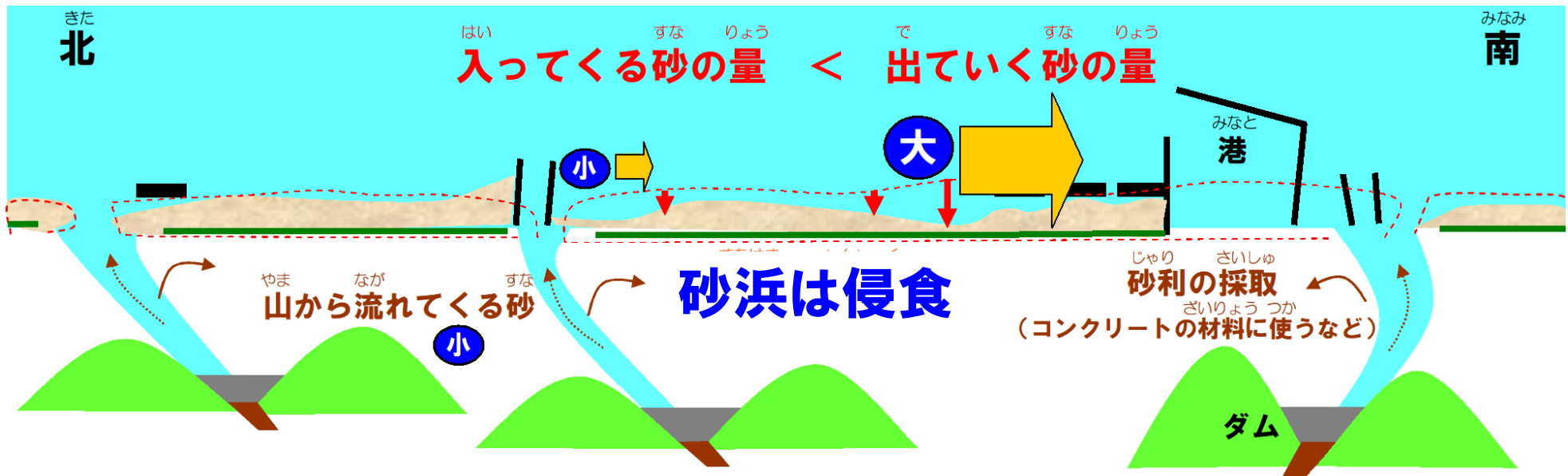
※検討状況等によりスケジュールは変更する可能性があります

(3) 対策の必要性のおさらい 1) 砂の出入りと砂浜の関係

- ・海岸に入ってくる砂の量が、海岸から出ていく砂の量よりも少ない場合には、砂浜は侵食する



宮崎海岸の砂の動きのイメージ



(3)対策の必要性のおさらい 2)砂浜の回復状況

- 10年程度前(2011(H23)年)と現在(2024(R6)年)の空撮を比較したところ、突堤区間や動物園東の南側は浜幅が回復していることが確認できる



※撮影時の潮位 H23.11:T.P.±0m程度, R6.7:T.P.-0.5m程度

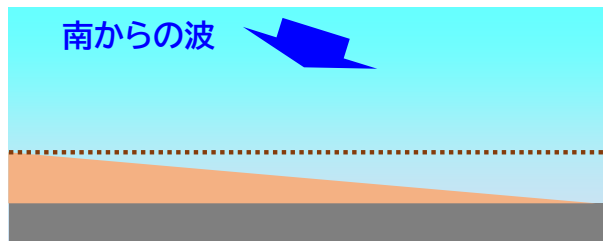
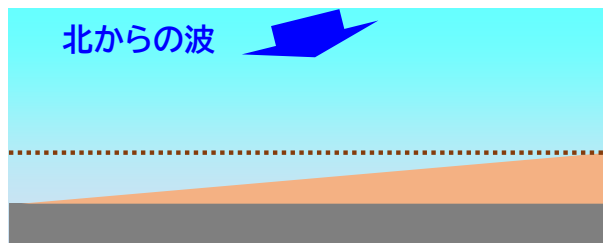
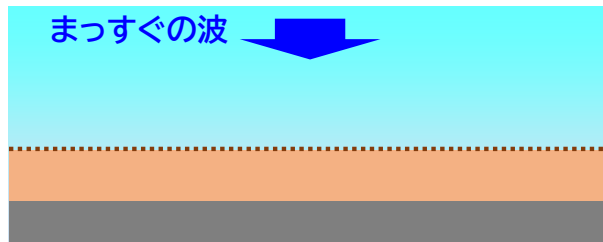
-
- Figure 1 consists of two line graphs, '実測' (Actual) and '予測' (Prediction), showing the distance from the coastline to the sea (Y-axis, 200-400m) versus the distance along the coast (X-axis, 14500-24500m). The '実測' graph compares data from December 2013 (blue line) and December 2023 (red line). The '予測' graph compares actual data (red line) with predicted data (dashed black line). Both graphs show areas of erosion (blue hatched) and accretion (red hatched). Key locations marked include Tsubosawa River, Nitsutachi, Okauchi 3, Okauchi 2, Okauchi 1, Kawa River area, Ishizaki Bay 2, Ishizaki Bay 1, Kofu River area, Kofu River 2, Kofu River 1, Kofu River 2 North, Kofu River 1 North, and Kofu River North. The predicted erosion is more extensive than the actual erosion, particularly in the central and right portions of the coastline.



(3)対策の必要性のおさらい 4)挟み込みの必要性

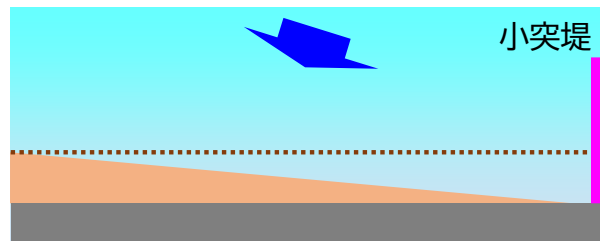
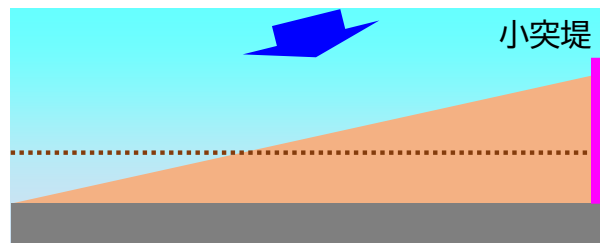
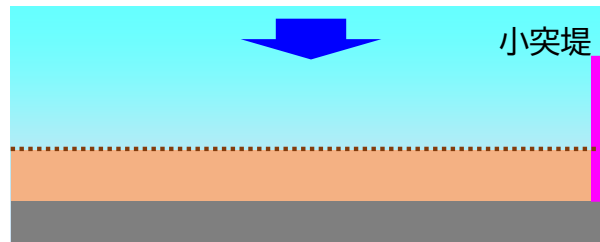
小突堤がない場合

- ・北からの波、南からの波により砂が移動して砂浜が狭くなる



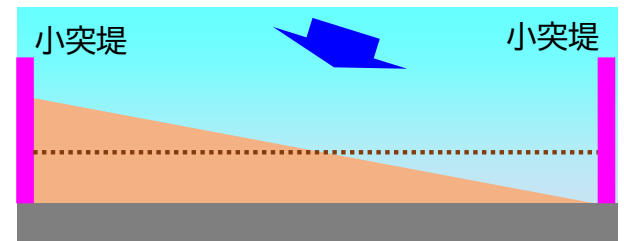
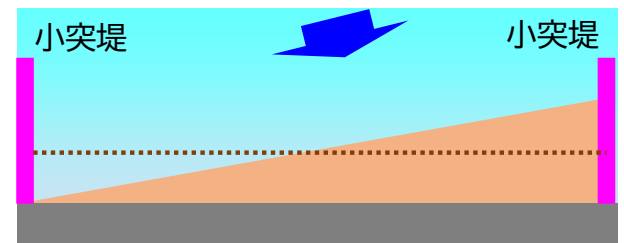
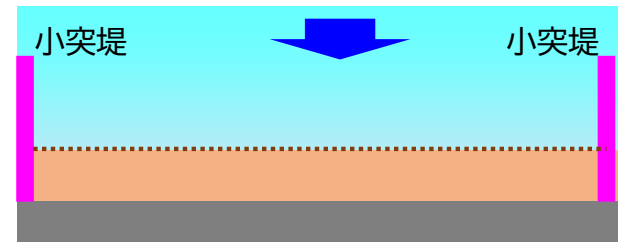
小突堤が1基の場合

- ・北からの波のときは砂の移動が抑えられるが、南からの波のときは砂が移動して砂浜が狭くなる



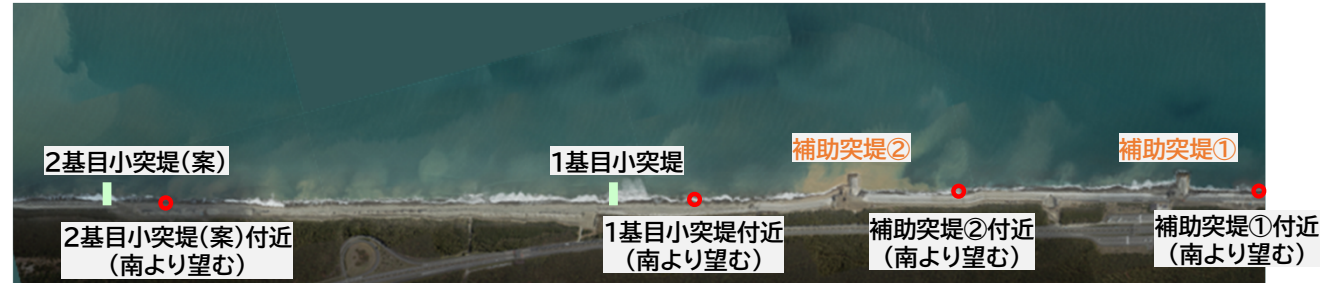
小突堤が2基の場合

- ・北からの波、南からの波のどちらでも砂の移動が抑えられる



(3)対策の必要性のおさらい 4)挟み込みの必要性

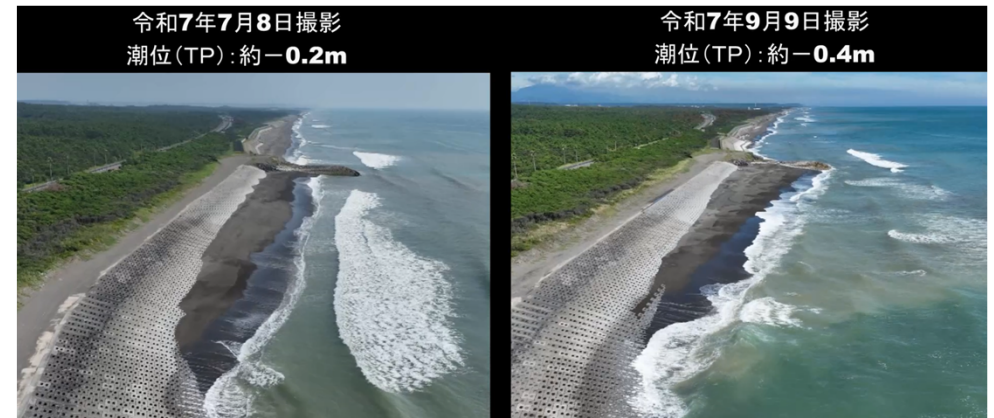
- 宮崎海岸では一年を通しては南側に砂が動くが、台風の時などには北側に砂が動くなど、南北に砂が行ったり来たりしている。



補助突堤①付近(南より望む)



補助突堤②付近(南より望む)



1基目小突堤①付近(南より望む)

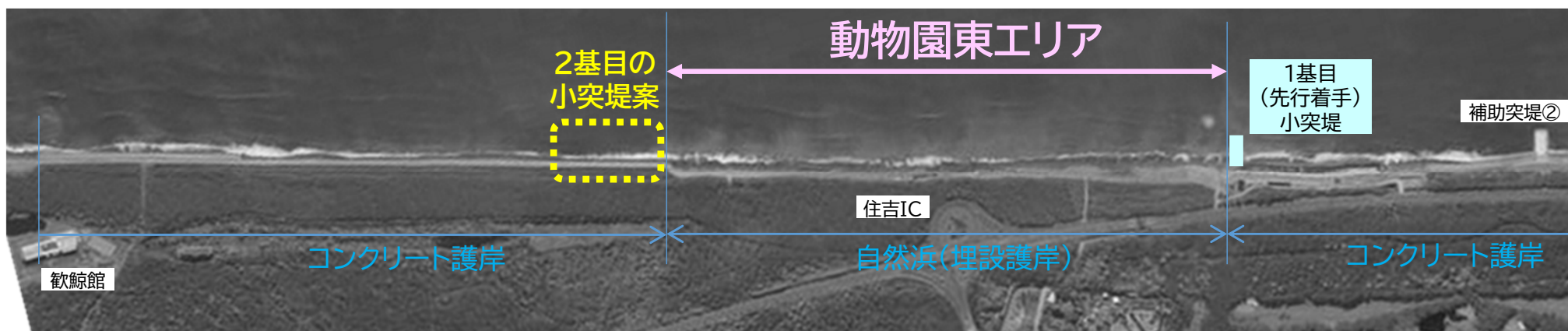


2基目小突堤(案)付近(南より望む)



(3)対策の必要性のおさらい 5)2基目の配置

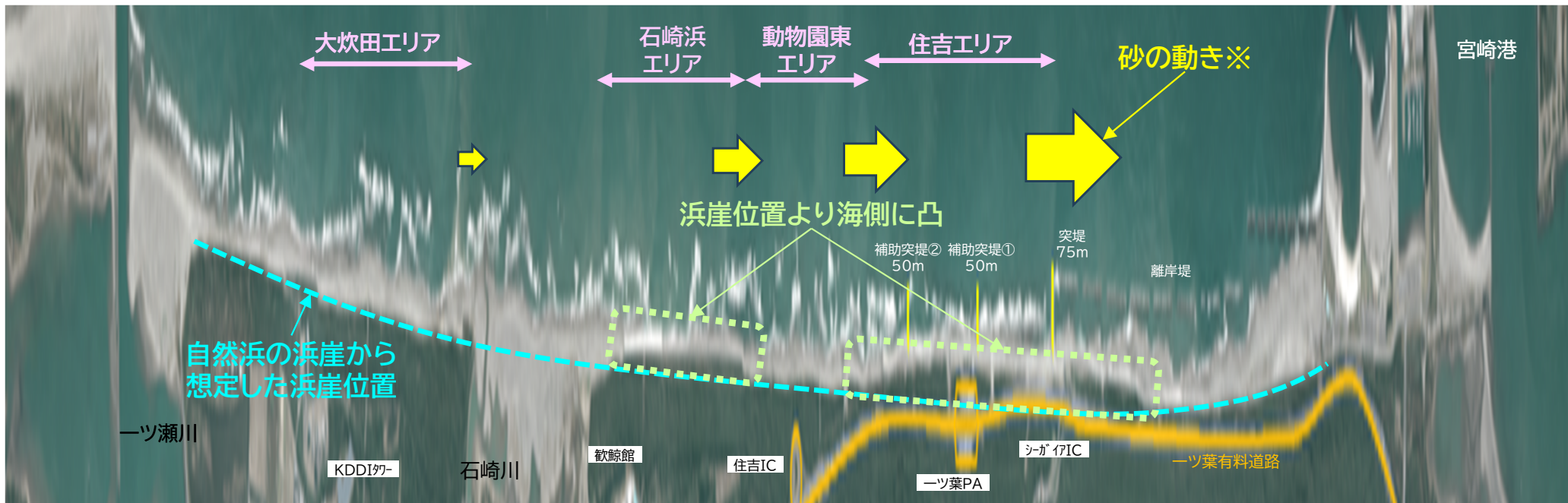
項 目	内 容(案)	備 考
施設	小突堤50m	1基目(先行着手)と同等の構造を想定
養浜	周辺への影響を緩和するように実施	1基目(先行着手)と同様に南北に養浜を実施することを想定
施工時期	令和8年度以降	2か年程度
手順	技術分科会に諮り、位置・構造等を検討	シミュレーションも実施して検討予定
利用・環境・景観	委員会等に諮り、配慮事項などを検討	



(3)対策の必要性のおさらい 6)住吉エリアの困難さ

- ・住吉エリアは、護岸が海側に出っ張っていること、砂の移動が最も激しく砂浜の回復が最も困難である

縦方向に10倍に引き延ばした空中写真

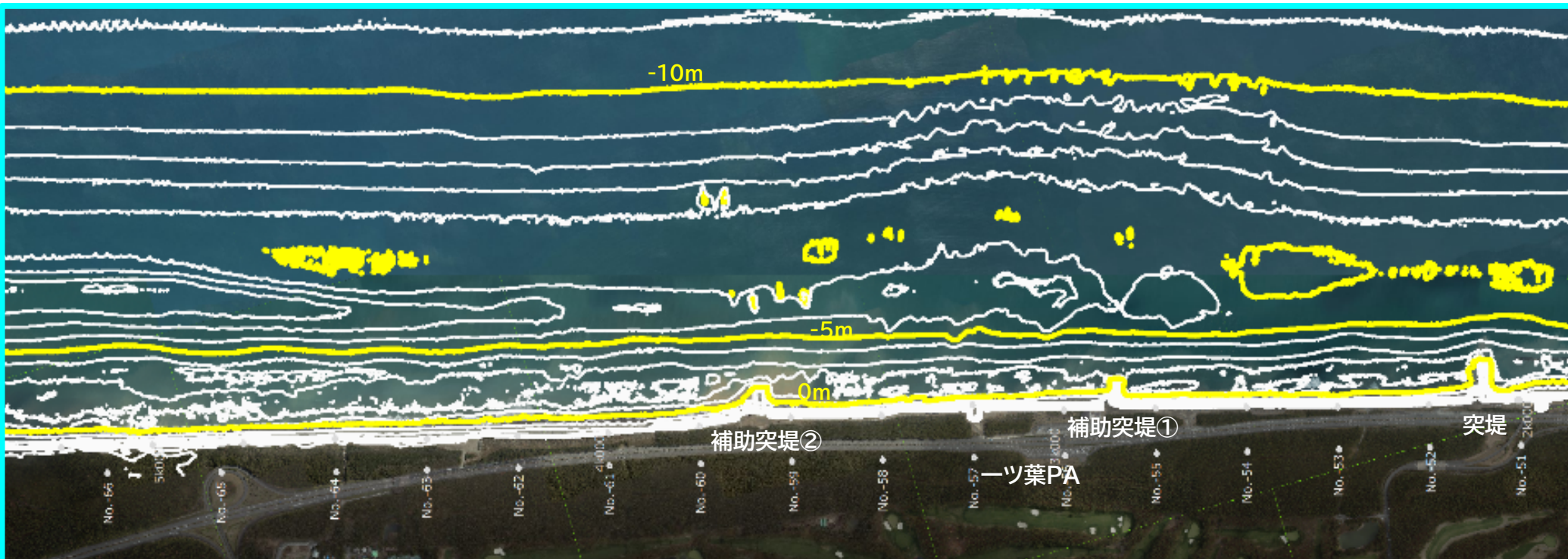
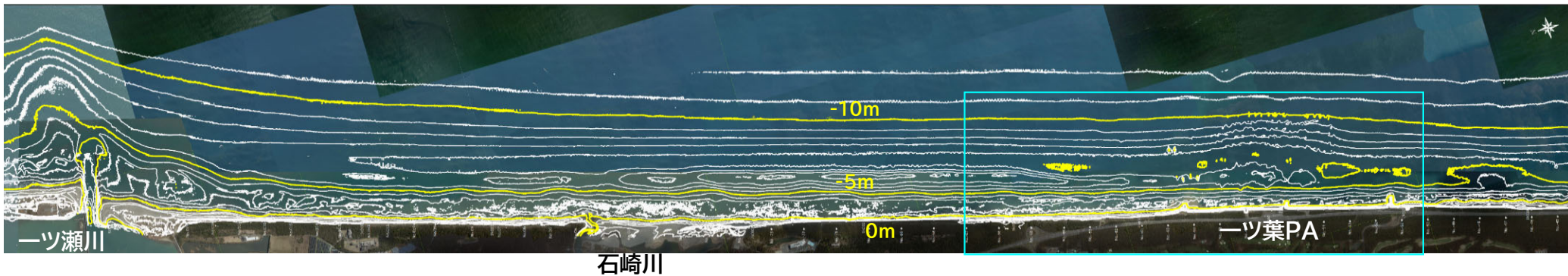


※シミュレーション結果を参考にして、砂の動きの大きさを矢印の大きさを表している



参考:住吉エリアの護岸の張り出し状況

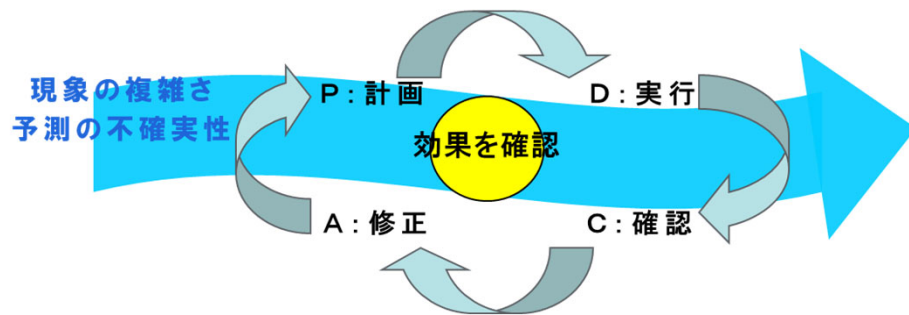
- ・宮崎海岸は平行等深線の海岸であり、水深10m、水深5mの間隔は沿岸ではほぼ同じである
- ・一方、汀線(0m)は南に向かうにしたがって沖に張り出している。このため南側(一ツ葉PA前面等)は砂が付きにくい状況となっている
- ・なお、一ツ葉PA前面の水深10mまでの海域はやや堆積がみられる



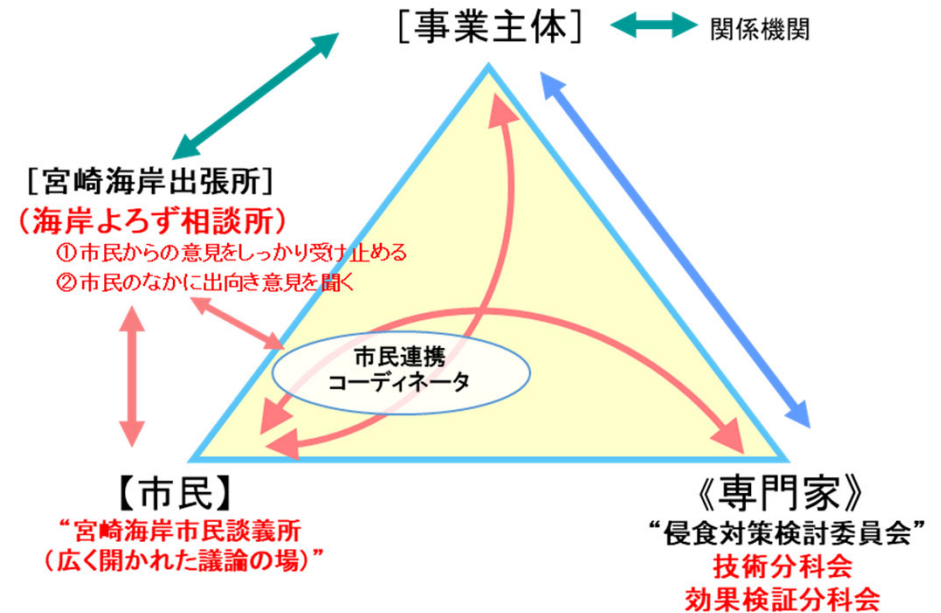
(4) 早急な対策の必要性について

- 事業全体の効果・影響を確認しながら事業を推進(宮崎海岸ステップアップサイクル)
- 市民・専門家・行政関係機関と継続的に協議しながら実施(宮崎海岸トライアングル)

宮崎海岸ステップアップサイクル



宮崎海岸トライアングル



- 以上を踏まえると、**早急に次の対策を推進する必要があるため、**
2基目の小突堤について、**次回の技術分科会(R7.12開催予定)に諮る予定**

3. 住吉エリアの方向性について

(1) 検討の進め方

(2) 現状の安全性と対策の必要性

(3) 場所の特性とブロック区分

(4) 対策の考え方

(1)検討の進め方

【動物園東・石崎浜・大炊田エリア】

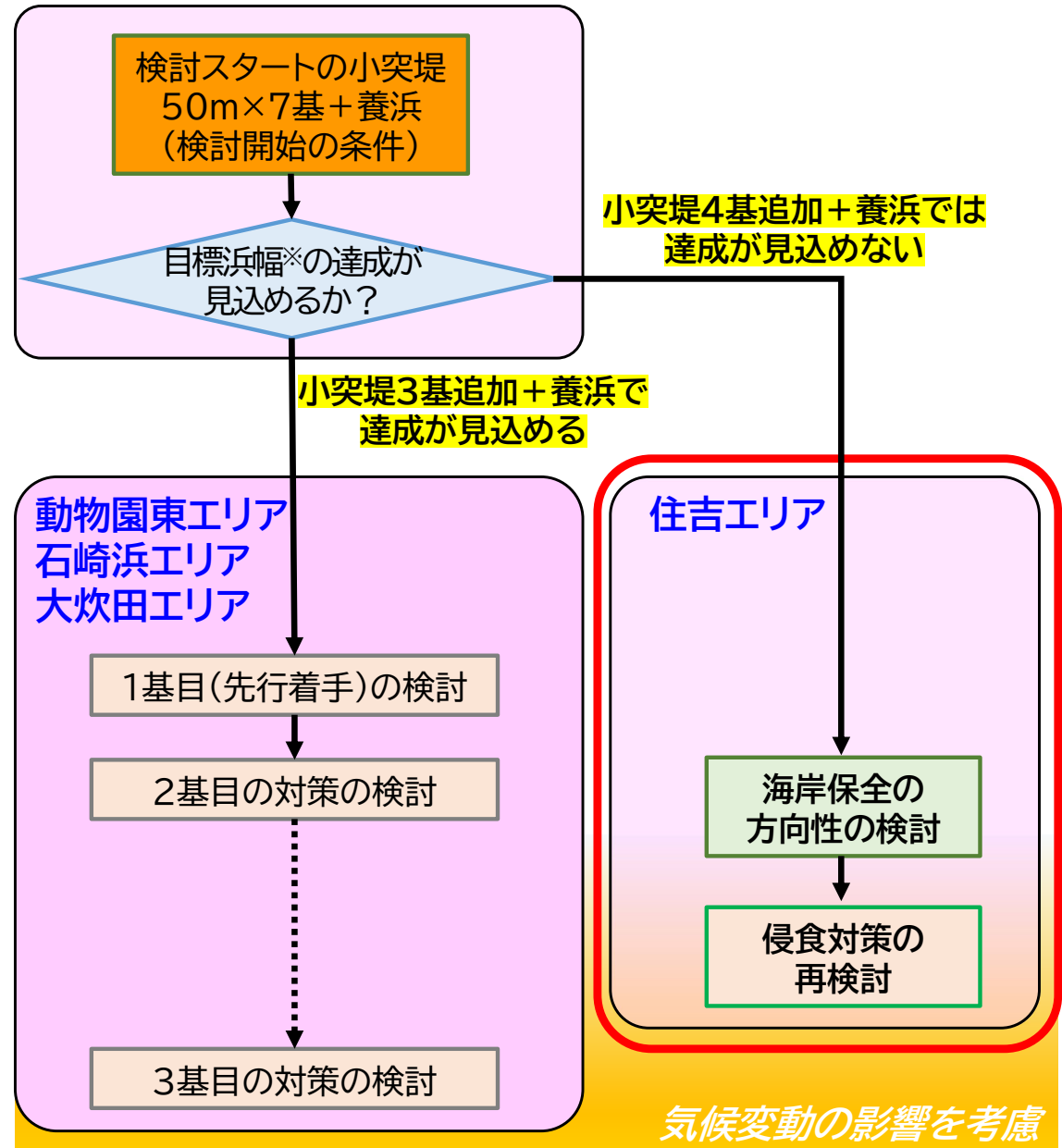
- 小突堤追加3基と養浜で目標浜幅の達成が見込めるため、早期砂浜回復のための先行着手(1基目)実施の具体について検討する。
- 事業を実施しつつ、エリア内の2基目以降の対策について検討する。

【住吉エリア】

- 小突堤追加4基と養浜では目標浜幅の達成が見込めないため、海岸保全の方向性を検討し、侵食対策を再検討する。

※気候変動について

- 気候変動は上位計画である日向灘沿岸海岸保全基本計画で外力の設定が確定された後に検討する。

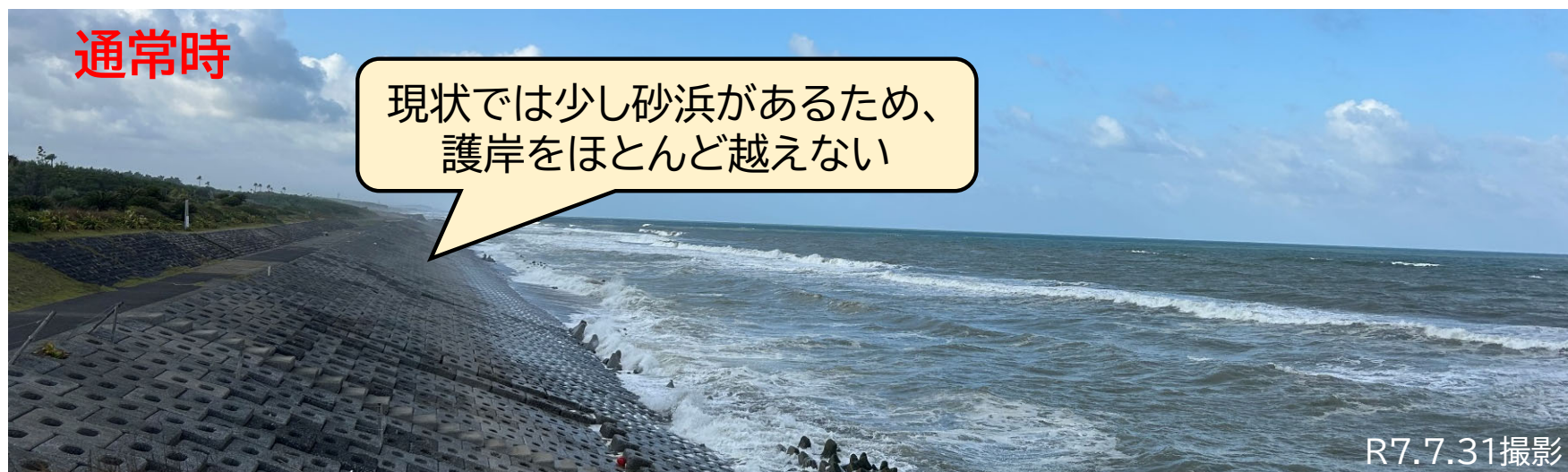


※当初計画の目標浜幅(50m)には短期変動分25mを見込んでいる

(2)現状の安全性と対策の必要性

- 32 -

○波の条件によっては、波が護岸を越えるため、対策は必要である

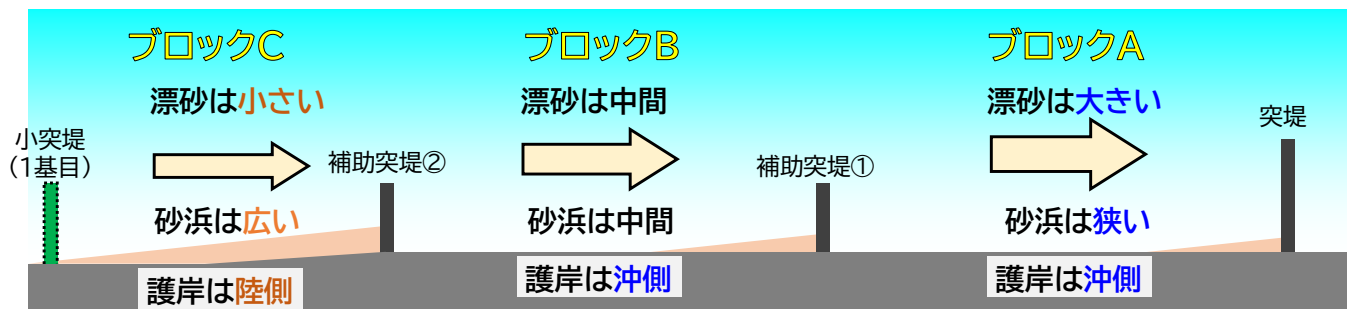


(3)場所の特性とブロック区分

- 住吉エリアは、砂浜はいつもあるわけではないが、冬季などは突堤等の北側に砂浜が確認できる
- 北側ほど砂浜が確認できる時期は多く、補助突堤②の北側はほぼいつも砂浜がある
- ・上記の現状の特性を踏まえ、対策を考えるうえでのブロック区分を下表のとおりとした

●ブロック区分(案)

項 目 (ブロック内の比較)	ブロックC 小突堤～補助突堤②	ブロックB 補助突堤②～補助突堤①	ブロックA 補助突堤①～突堤
砂の動きやすさ (漂砂)	最も 小さい	ブロックCより 大きく 、Aよりも 小さい	最も 大きい
護岸の岸沖位置	陸側 である	沖側 である	沖側 である
砂浜	最も 広い	ブロックCより 狭く 、Aよりも 広い	最も 狭い



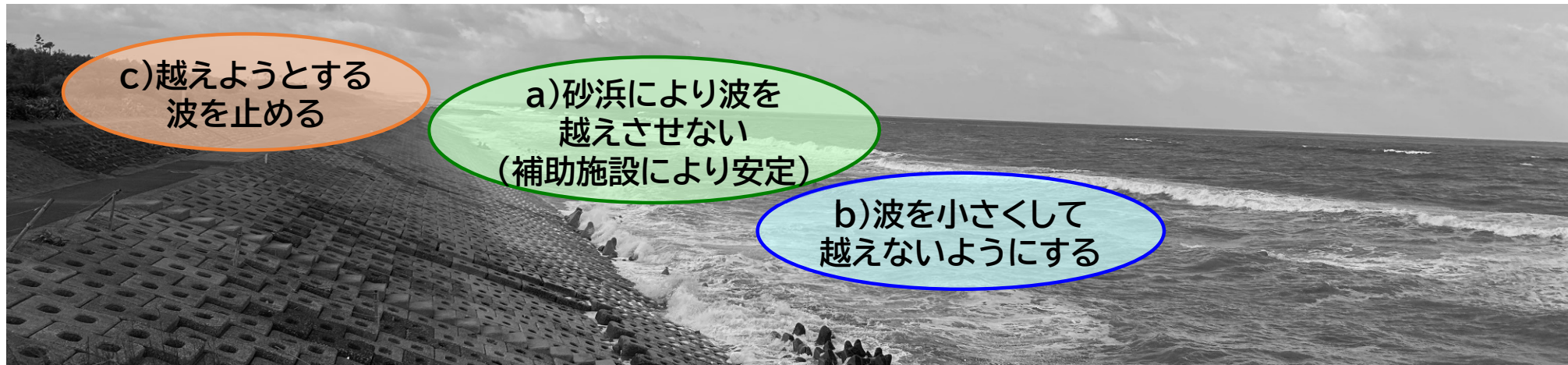
(4)対策の考え方

○波が護岸を越えないようにするためには以下の対策がある

a)砂浜により波を越えないようにする(砂浜を留める補助施設も必要)

b)波を小さくして波を越えないようにする

c)越えようとする波を直接止める



○3つの対策について、組み合わせや場所の特性(どのブロックにどの方法が適するか)も含めてどれが適切かを検討していく



4. 談義

談義の項目と進め方

■談義の項目 2基目の小突堤に関する配慮事項など 住吉エリアの方向性について

■談義の進め方

- 2基目の小突堤に関する配慮事項や、住吉エリアの方向性について、みなさんに質問・意見・提案・思いなどを付箋紙に書いて頂きます
- 付箋紙を見ながら談義します

付箋紙: 質問・意見・提案・思いなど

- ・2基目の小突堤に関連して利用・環境などで配慮してほしいこと
- ・住吉エリアの方向性に関する意見・提案など
- ・事業実施のための条件に関する質問など
- ・宮崎海岸の魅力・価値の共有方法など

●2基目の小突堤に関する前回談義所で出た意見に対する回答

◆前回の市民談義所(R7.9開催)の意見

意見	事務局回答
・前回の談義所までの説明では、1基目の小突堤について、効果が確認できなかった時に撤去しやすい構造という話もしていた。小突堤2基目は小突堤1基目の結果が出てから数年後でないと必要性がわからないと思う。	・1基目の突堤と合わせて効果を高める事業を進めることを考えている。効果は全体でみていく必要があるため、事業主体として1基目の突堤の整備が進む中でも検討は進めなければならない。
・1基目の突堤の効果判定をしてから、突堤を増やす話だったと思う。効果判定をしないで作るのをおかしいのでは。次のステップに進むための「効果」とは何か。 ・現在、南からのうねりが入って突堤の北側に砂浜が付いているので、突堤をつくれれば砂が溜まるというのは分かる。また、南側の突堤付近も、砂が溜まって先端あたりが浅くなっている。しかし、このままだと次から次へ突堤が増えそうで心配である。談義所が蔑ろにされていると感じる。	
・模型実験をすることはできないだろうか。シミュレーション結果のみでは視覚的イメージがわからず、理解に苦しむ。	・実験と現地でスケールが大きく異なるため、実態との関係(どれだけ実際の海岸を模倣しているか)がわからない。そのため、模型実験をすることは非常に困難である。
・突堤以外の何か斬新な方法はないのか。 ・石崎浜の護岸を撤去することはできないのか。護岸を撤去して、サンドバックを置くのが良いのではないかと思う。 ・護岸の撤去ができないのであれば、サンドバックを用いて突堤を作る(護岸の前にサンドバックを突堤のように設置する)ことはできないのか。	・あくまでサンドバックは護岸の技術基準に従ったものであり、突堤として用いるということになれば、その検討や現地試験を行い、技術基準を作る必要がある。そのため、事業の中ですぐに行うことは難しい。

●住吉エリアの方向性に関する前回談義所が出た意見に対する回答

◆前回の市民談義所(R7.9開催)の意見

意見※	事務局回答
・なぜ9つの対策メニューしかないのか。	・今現在の制約の中で、技術的に考えられる案である。
・垂直護岸は波を高く巻き上げるだけで、砂の堆積には効果がない。前面に砂がつきにくいのでやめてほしい。 ・アカウミガメの上陸・産卵に悪い影響が多いため、離岸堤はやめてほしい。 ・住吉エリアに離岸堤、人工リーフを置くという提案はカメの産卵をあきらめたということではないか。	・意見を踏まえたうえで対策を検討する。
・対策として、デメリットに海域利用やカメの上陸が困難となる対策は、そもそも意味がないのではないか。	・難しい条件下で対策検討を進めていくことになるため、メリット・デメリットはどうしても発生してしまう。
・パイプラインによるサンドバイパスがベストではないのか。	・当初計画でパイプラインによるサンドバイパスを検討済みである。国内の実施事例を改めて確認したが、実現困難な対策と判断している。
・対策の中で越波防止というのがあるが、セットバックと合わせて、今ある堤防よりも後の方(保安林の中とか)に必要な高さのものを設置できないのか。	・国土の面積を減らすことに繋がるような対策は事業主体として選択できない。
・最初から背後地の安全対策をすればよかったのではないか。住吉エリアは砂浜も構造物も今のままでよいのではないか。	・波の条件によっては、波が護岸を越えるため、対策は必要である。
・全域に離岸堤を整備するということしか答えがないというのでは、これまで市民談義所で議論を重ねてきた意味がないと思う。	・様々な対策について、組み合わせや場所の特性も含めてどれが適切かを検討していく。

※2基目の小突堤のテーブルで出た意見も含む

参考：宮崎海岸の魅力・価値の共有に関するこれまでの意見

◆市民談義所の意見※

※第50回(R6.2開催)以降の市民談義所での意見

回	年月	意見
第58回	R7.6	突堤を工夫してフォトジェニックなどの観光資源にできないか。また、月の道などを意識した夜の景観スポットとしての活用などは考えられないか。
		海岸に観光客を誘致できるように宮崎市の観光課などと一緒に進めていくことはできないのか。
		セットバックした箇所を“ウミガメの里”などとネーミングしてアピールすると、砂浜の価値が伝わるのではないか。
第56回	R7.2	乗馬コースに取り入れる、先端に鳥居を整備するなど、何か利用ができれば、観光資源にもなると思う。

◆特別・海岸よろず相談所での意見

年月	意見
R7.10	距離標にQRコードを付けて、過去にあった災害などの情報がみられるようにするのが良いのではないか。
	裸足で海岸を走るイベントがあり50名ほどが集まった。このようなイベントがあると知名度があがると思う。
	「住吉サンドバック海岸」と命名してアピールすることで、宮崎海岸の知名度をあげるられるのでは。
	談義所に県や市の観光課を呼ぶのはどうか。観光、公園も視野に入れて、背後地の利用も含めて何かできないか。
	定期的なビーチイベント、スタンプラリーなどもよいのではないか。
	高校生は内申書に書くことができる社会活動・ボランティア活動などの実績が欲しい時期がある。参加したことの証明書が出せるといい。そのイベントで海の状況を伝えていく。

参考:イベントの例(第1回宮崎海岸サポーターズ)

◆日時:平成30年12月8日(土)09:30~12:15

◆場所:大炊田海岸の砂浜

◆参加者:一般参加者43名,市民協力者11名

◆イベントの内容: (総勢 約90名)

- ・宮崎海岸の侵食対策のお話
- ・小型地引網の実演
- ・ちりめんモンスター探し
- ・タッチプールで魚をさわって学ぼう
- ・宮崎の海でとれる魚のお話
- ・お魚さばきの実演
- ・帰り道のビーチクリーン など

◆協力頂いた団体

- ・広瀬西小学校区地域づくり協議会
- ・松本水産(有)、山西水産(株) など

■手作りのあら汁



■地曳網体験



■お魚さばきの実演



■侵食対策のお話



■お魚タッチプール



■砂浜でみんなで記念撮影



第1回宮崎海岸サポーターズ

身近な海岸をもっと知ろう!

海の恵み おさかな編



平成30年12月8日(土)
9時30分~12時15分
(9時受付開始)

宮崎の砂浜が育んだ魚に触れて、「いま」の宮崎海岸を感じましょう

内容(予定)

- ・小型地引網の実演
- ・ちりめんモンスター探し
- ・タッチプールで魚をさわって学ぼう
- ・宮崎の海でとれる魚のお話
- ・お魚さばきの実演 など

集合・解散

海岸より相談所:
 宮崎市佐土原体育館
 佐土原総合支所
 佐土原総合文化センター

宮崎海岸のホームページ
<http://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/sskondan/>

宮崎海岸事業 検索
 お手持ちの携帯電話、スマートフォンから右のQRコードを読み取るとアクセスできます



主催: 宮崎海岸市民談義所事務局 (国土交通省宮崎河川国道事務所・宮崎県)
 お問い合わせ・お申し込みは海岸よろず相談所 (国土交通省宮崎海岸出張所) へ! (裏面をご覧ください)

5. スケジュール

今後のスケジュール

			令和6年度										令和7年度											
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会 議	市民 談義所	主な 内容	(委員会等 の報告)	・現状認識	・海岸保全 の方向性 ・施設につ いて		・対策着手 に向けて (現地談義)	・先行して 着手する箇 所(案) ・計画素案		・先行着手 箇所の対策 ・住吉エリ アの方向性 ・効果検証		・先行着手 対策詳細 ・効果検証		・海岸保全 の方向性			・住吉エリ アの方向性 ・2基目の 対策につ いて		・早急な対 策の必要性 ・住吉エリ アの方向性		・住吉エリ アの対策案 ・2基目の 対策案		・住吉エリ アの対策案 ・2基目の 対策案	
		※色文字は 報告	会議	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回	第59回	特別・よろ ず相談所	第60回	第61回	第62回								
	技術分科会							第16回		第17回									第18回					
	効果検証分科会									第12回											第13回			
	委員会							第24回		第25回													第26回	
工 事	養浜																							
	突堤等(予定)																							

			令和7年度											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会 議	市民 談義所	主な 内容	・先行着手 対策詳細 ・効果検証		・海岸保全 の方向性			・住吉エリ アの方向性 ・2基目の 対策につい て		・早急な対 策の必要性 ・住吉エリ アの方向性		・住吉エリ アの対策案 ・2基目の 対策案		・住吉エリ アの対策案 ・2基目の 対策案
		※色文字は 報告	会議	第57回		第58回			第59回	特別・よろ ず相談所	第60回		第61回	
	技術分科会											第18回		
	効果検証分科会												第13回	
	委員会			第25回										
工 事	養浜													
	突堤等(予定)													

※談義の内容等によりこのスケジュールは変更する場合があります